

## 2003年6月アルゼンチンの政治情勢

2003年7月作成  
在アルゼンチン大使館

### 1. 概要

キルチネル大統領は、政権発足時から掲げている汚職撲滅及び透明性向上を旗印として、最高裁長官の弾劾呼びかけ、健康保険機構（PAMI）の改革など矢継ぎ早に改革を打ち出し、メネム派と言われる最高裁長官、政敵に近い健康保険機構の理事を事実上更迭させるなど独自の政治基盤の構築において大きな成果を上げた。他方、最高裁判事の人選過程に法曹関係者等の参加を認め、大統領の権限を従来と比較して弱める政策を発表するなど真の改革を追求する一面も見せた。そのような実行力が国民に評価された結果、70%を超える支持率を得るなど予想以上に順調なスタートを切った。

外交面では、伯との戦略的同盟関係の強化を中心としたメルコスール重視を意図して、キルチネル大統領は初の外遊先として伯を選択し、ルーラ大統領と会談するとともに、米国及びEUとの関係では、バランスをとる観点からシオリ副大統領を米国及び欧州に派遣するなど良好な関係構築に努めた。とりわけ、米国との関係では、パウエル国務長官が訪亜しキルチネル大統領と会談するなど、二国間関係を危惧する噂をある程度払拭した。また、マルビーナス領有権問題に関しては、ビエルサ外相は従来どおり英国との交渉再開を強調した。

### 2. 内政

#### （1）司法弾劾審議及び最高裁長官の辞任

（イ）6月4日、キルチネル大統領は、テレビ演説を行い、ナサレロ最高裁長官を批判した上で、従来の行政と司法の持ちつ持たれつの関係に終止符を打つため、議会に対し憲法に基づいて最高裁判事を弾劾するよう訴えた。それに答えるかたちで5日、下院司法弾劾委員会が開かれ、不適切な職務遂行を理由にナサレノ最高裁長官の弾劾審議を開始することを全会一致で決定した。

（ロ）19日、下院司法弾劾委員会は、ナサレノ最高裁長官に対し、5つの事例における15の告発を根拠とした不適切な職務遂行を理由に、弾劾審議に諮る旨の文書を送付し、25日、同長官は答弁書を提出した。

（ハ）26日、下院司法弾劾委員会は、まずナサレノ最高裁長官の答弁書を却下し、改めて8つの事例における22の告発を根拠とした不適切な職務遂行を理由に、7月3日に同委員会採択を行うことを決定した。

（ニ）27日、ナサレノ最高裁長官は、個人的事情を理由に辞任した。

#### （2）司法改革

19日、キルチネル大統領は、最高裁判事の人選過程において、大統領の権限を弱める政策を発表した。具体的には、官報、全国紙等に候補者名を公表し、同人の略歴、個人資産、最低8年間の職務内容（判決内容、顧客名等）といった個人情報を公開するほか、法曹界及び人権団体の意見が組み入れられる。

### （3）健康保険機構（PAMI）改革

キルチネル政権は、行政のPAMIへの介入を延期なしの180日間限定で認める法案を提出し、ペロン党、急進党、フレパソの支持のもと、18日に上院で、翌19日に下院で可決させた。これに伴い、行政は管財人を任命しPAMIに介入できることになった。他方、同政権は、理事の人事に関し、労働組合に圧力をかけ、19日に政府に反抗的な2名の理事更迭に成功した。

### （4）地方の動向

#### （イ）コルドバ州

8日、コルドバ州知事選挙が実施され、現職のデラソタ・ペロン党候補が得票率51.44%を獲得し、2位のアグアド急進党候補に14ポイントの差をつけて圧勝し、再選を果たした。就任は7月12日で、任期は2007年12月10日まで。

#### （ロ）ティエラデルフエゴ州

（a）22日、ティエラデルフエゴ州知事選挙が実施され、現職のマンフレドッティ・ペロン党候補が、得票率29.5%を獲得し1位となったが、当選に必要な過半数に達せず、2位のコロソ急進党候補との決選投票となった。

（b）29日、決選投票が行われ、第一回投票で敗北した他の勢力がコロソ候補支持に回ったこともあり、同候補が51.8%の得票率を獲得し、マンフレドッティ候補を逆転で破り初当選した。コロソ次期州知事は、2004年1月10日に就任する。任期は4年。

#### （ハ）トゥクマン州

29日、トゥクマン州知事選挙が実施され、与党ペロン党候補のアルペロビッチが得票率42.37%を獲得し、2位の野党急進党候補のヘレスに20ポイント近く差をつけて圧勝した。アルペロビッチ次期州知事は、10月29日に就任する。任期は4年。

### （5）人権

（イ）3日、ボナフィニ「五月広場の母達」代表等は、キルチネル大統領と1時間以上に亘って会談し、対外債務支払いの即時停止、ピケテロへの裁判中止、最高裁判事の罷免及び訴追、ベリス司法相の更迭、治安関係機関の肅正等を求めた請願書を提出した。

（ロ）18日、スキデルスキ連邦予審判事は、軍政期に拘留中の政治犯22名が射殺された「マルガリータ・ベレン殺害事件」に関与した疑いで現役軍人1名を含め計10名の逮捕命令を下した。

(ハ) 28日、墨で拘束中のリカルド・カバロ元海軍少佐は、1976年からの軍政期における西国籍者への虐殺・拷問等に関与した容疑で、西に身柄を引き渡された。29日に、ガルソン予審判事の尋問を受けたが、黙秘を貫き、無条件予防拘留に科せられた。

### 3. 外交

#### (1) 第24回メルコスール首脳会議

6月17、18日両日、キルチネル大統領及びビエルサ外相は、パラグアイで開かれたメルコスール首脳会議、外相会議に夫々出席した。首脳会議では、亜はメルコスール通貨研究所の創設を提案した。今回の訪問には、ラバーニャ経済相、ビエルサ外相、トマダ労相、アセバド国家情報庁長官、インスフラン・フォルモッサ州知事等が同行した。

#### (2) 伯

10、11両日、キルチネル大統領は、ブラジリアを訪問した。11日には、ルーラ大統領と1時間に亘って両首脳のみで会談し（後に両国外相及び経済相が同席し1時間に亘って意見交換が行われた）、両国がメルコスール及び南米の統合を優先していること、両国の価値観及び目的が多く の点で一致していることは両国の戦略的同盟関係の強化に繋がる旨確認した。同会談終了後、31項目からなるコミュニケを発表した。主要点は、社会政策のコーディネート、政府調達につき二国間合意を促進、FTAA 交渉は4プラス1で行う、砂糖を巡る両国間の問題解決、公共事業のコーディネート等である。また、両首脳は、両国が南米全体の統合をリードし、対国際機関との交渉能力を高める必要性を確認した。今回の訪問には、アルベルト・フェルナンデス首相、ラバーニャ経済相、ビエルサ外相、デラソタ・コルドバ州知事（元駐伯大使）等が同行した。

#### (3) チリ

3日、訪亜中のアルベアル智外相は、ビエルサ外相と会談し、200数種類に及ぶ製品の関税撤廃、国境管理、アンデス鉄道敷設、アウストラル開発審議会の活性化といった二国間問題のほか、メルコスールといった地域問題を取り上げ、意見交換を行った。また、将来的に、平和維持活動への共同参加といった外交政策での協調を目指すことも提案された。

#### (4) 米国

(イ) シオリ副大統領は3日から6日にかけて、第33回米州評議会への出席を主要目的として訪米した。その機会を利用して、同副大統領は、投資家、企業家、経済アナリストと会談しキルチネル政権の方向性を説明したほか、クリントン前大統領、ヒラリー上院議員、キッシンジャー元国務長官と言葉を交わした。

(ロ) 10日、パウエル国務長官が訪亜し、キルチネル大統領と約50分に亘って会談を

行った。同会談で、パウエル国務長官は、亜と IMF の交渉合意に向けてキルチネル政権を支援する方針を示すとともに、本地域と自由貿易協定の交渉を開始することに興味を示した。また、最高裁判事の弾劾審議については、状況に留意する旨述べた。今回の会談には、亜側から、ビエルサ外相、ラバーニャ経済相、ボルドン新駐米大使が、米国側からストルーブル国務次官補代行、ウォルシュ在亜大使が同席した。

#### (5) 米州機構

8、9日両日、ビエルサ外相は、チリで開催された第33回米州機構総会に出席し、演説の中で、社会的に排除された民主主義は存在しないと強調したほか、対人地雷9万個破壊のための協力協定に署名した。また、亜は、今回の総会で2005年にブエノスアイレスで開かれる米州サミットの議長国に就任した。

#### (6) EU

26日、プロディ欧州委員会委員長は、キルチネル大統領と電話で会談し、7月15日にブリュッセルで会談することに合意したほか、危機を克服するための同政権の努力に対し支持を表明した。また、パッテン対外関係担当委員は、同日、ビエルサ外相に書簡を送付し、EU・亜間の外交関係は歴史的に新たな段階に入ったと述べた。

#### (7) ベネズエラ

18日、キルチネル大統領は、滞在先のパラグアイでチャベス大統領と会談し、二国間で7億から10億規模の貿易相互協定に関し協議し、8月末までに合意にいたることを確認した。

#### (8) 西

25日から27日にかけて、シオリ副大統領は西を訪問し、アスナール首相、カルロス国王、サパテロ社労党書記長、同地企業幹部と会談した。26日に行われたアスナール首相との会談では、同首相より IMF との交渉、米国及び EU との関係において必要な際には亜を支持する旨伝えられた。

#### (9) マルビーナス領有権問題

(イ) 10日、ビエルサ外相は、第33回米州機構の総会で同問題を取り上げ、歴史的に亜の領土であるマルビーナス諸島が英国の占領下にあると主張した。

(ロ) 16日、ビエルサ外相は国連非植民地化委員会で演説を行い、マルビーナス諸島の領有権回復は国策である旨強調し、英国との交渉再開を求めた。同委員会後、ビエルサ外相は、マルビーナス諸島代表に挨拶した。

(10) 要人来往

(イ) 来訪

3日 アルベアル智外相

6日 Cristovam Buarque 伯教育相

8-10日 フェリペ・ゴンサレス元西首相

10日 パウエル国務長官

23、24日 ケーラーIMF 専務理事

27日 Goran Svilanovic セルビア・モンテネグロ外相

30日 Jose Fritsch 伯漁業相

(ロ) 往訪

3-6日 シオリ副大統領、第33回米州評議会の会合に出席するため米国へ

8、9日 ビエルサ外務大臣、第33回米州機構総会に出席するためチリへ

10日 トマダ労働大臣、第91回ILO総会に出席するためスイスへ

10、11日 キルチネル大統領、ビエルサ外務大臣及びラバーニャ経済大臣、ルーラ大統領及びアモリン外相と会談するため伯へ

12日 ラバーニャ経済大臣、FTAA 経済・通商大臣会合に出席するため米国へ

16日 ビエルサ外務大臣、アナン国連事務総長と会談し、国連非植民地化委員会に出席するため米国へ

17、18日 キルチネル大統領、ビエルサ外務大臣及びラバーニャ経済大臣、第24回メルコスール首脳会議及び外相会議に出席するためパラグアイへ

25-27日 シオリ副大統領、アスナール首相及びカルロス国王と会談するため西へ

27-1日 シオリ副大統領、マルサノ生産活動相等と会談するため伊へ

(11) 7月の主要外交日程

(イ) 来訪

10日 オペルティ・ウルグアイ外相

12、13日 中国、李長春政治局常務委員

(ロ) 往訪

キルチネル大統領

11-14日 キルチネル大統領、中道左派サミット出席及びブレア首相との会談のため英国へ

13-14日 ビエルサ外相、英国へ

15日 キルチネル大統領、ビエルサ外相、プロディーEU委員長と会談のためブラッセルへ

16日 キルチネル大統領、ビエルサ外相、シラク大統領との会談のため仏へ

- 17日 キルチネル大統領、アスナール首相との会談及びカルロス国王謁見のため西へ
- 17日 ビエルサ外相、フラティアーニ外相との会談のため伊へ
- 18日 ビエルサ外相、パラシオ外相との会談のため西へ
- 19-20日 ビエルサ外相、マルティンス・ダ・クルス外相との会談のためポルトガルへ
- 21-24日 ビエルサ外相、米へ
- 23-24日 キルチネル大統領、ブッシュ大統領との会談のため米国へ
- 24日 ビエルサ外相、「司法と開発」国際会議出席のためエクアドルへ